

出エジプト記 2 章 1～10 節「主の計画と守り」

詩篇 121 篇に「主は すべてのおぼろげからあなたを守り あなたのたましいを守られる。主はあなたを 行くにも帰るにも 今よりとこしえまでも守られる」とあります。私たちは、このみことばの約束を信じて、歩むことができるので感謝です。

前回から出エジプト記を読み始めました。1 章の終わりには、助産婦たちへの命令がうまくいかなかったので、エジプトの王ファラオが「生まれた男の子はみな、ナイル川に投げ込まなければならない」とすべての民に命じたことが記されています。イスラエル人の苦難は続きます。

1. 家族の信仰 (: 1～4)

そのような時に生まれた一人の男の子に聖書は注目します。レビの子孫のある夫婦に、ファラオの命令が出された後に、男の子が生まれます。ファラオの命令であっても、生まれた子どもをナイル川に投げ込むことなどできるはずがありません。三か月間その子を隠しておきました。

この夫婦がその男の子を隠しておいたのは、親の情愛があったのはもちろんですが、それだけではなかったようです。聖書の他の箇所では彼らの信仰について語っています。

ヘブル 11 章 23 節。両親によって隠されていたことが「信仰によって」と言われています。信仰があったから「王の命令を恐れなかった」ということです。両親はアブラハム、イサク、ヤコブの神を恐れていたのです。

実はイスラエル人がエジプトで苦しむことはずっと前に神様によって語られていました。神様がアブラハムにこうお語りになったのです。創世記 15 章 13～14 節。

約束の地に帰ることができるというこの主のみことばがイスラエル人の中で保たれていたことでしょう。エジプトで奴隷となって苦しめられている中で、敬虔な者たちはその神様の約束を思い起こして、神様に祈り求めていることでしょう。

そのような主のみことばに対する信仰、みことばは必ず成就するという信仰があったので、王の命令を恐れないで、この夫婦は生まれた男の子を隠しておいたのでしょう。

けれども、赤ちゃんがいることを隠しておくことには限界がありました。それで、家族は知恵を用いてできる限りのことをします。パピルスのカゴに防水を施して、その中に赤ちゃんを入れて、ナイル川に浮かべます。それも岸の葦の茂みの中に置いて、流されないようにします。こうして、一応、王の命令には背かないようにします。そして、その子がどうなるかを見守るのです。その子の姉が、離れたところから見っていました。神様が助けてくださることを信じて、祈って委ねます。そして、どうなるかを見届けます。神様の御業を期待し、御業を見させていただこうとします。そこにも家族の信仰の態度を見ることができるのです。

私たちにも、自分ではどうにもできない困難に取り囲まれているかのように感じることもあるかもしれませんが。そんな時、あきらめて、屈するしかないのでしょうか。そうではありません。神様はみことばによって語ってくださいます。みことばの約束があります。希望が与えられます。信仰を励まされます。そして、私たちのできる範囲のことを行います。その上で、私たちの考えられることを超えて、神様が御業を行ってくださることを期待し、祈って、委ねることができるのです。そして、御業を見届けるのです。

2. 神の介入 (: 5～9)

その子の姉は、そして両親は、神様のどのようなみわざを見ることができたでしょうか。姉が見守っていると、その場所に、ファラオの娘が水浴びをしようとやってきました。そして、葦の茂みの中のかごを見つけ、取って来させ、開けて、見ると、赤ちゃんが泣いています。彼女はどのようにするでしょうか。

「彼女はその子をかわいそうに思い、言った。『これはヘブル人の子どもです』。ファラオの娘の心に神様は働かれたのです。ヘブル人の子どもであることが分かったのですが、彼女はかわいそうに思い、なんとか助けられないかと思ったようです。

その様子を離れたところから見ていたその子の姉は、とっさに行動します。ファラオの娘の前に出て行って、ヘブル人の子どものためにはヘブル人の乳母がふさわしいでしょうから、私が呼んで参りましょうか、と提案します。奴隷の子どもが、王女の前に出て、そんな提案をするのです。姉が機転をきかせ、勇気をもって行動したことがうかがえます。この姉の行動にも、神様の助けが与えられたことを思います。

さらに、そんなこの誰だか分からないヘブル人の子どもが申し出た提案など気にも留めないこともできたでしょう。しかし、ファラオの娘はその提案を受け入れます。

姉は自分たちの母親を連れて来ます。するとファラオの娘は、自分が賃金を払うから、この子を育てて欲しいと言うのです。こうして、その子は母親のもとに戻ることができました。一度家族から引き離されましたが、また家族のもとに戻り、家族によって育てられることになりました。しかも、ファラオの娘から承認と支援を受けながら、堂々と育てられることになったのです。

このような素晴らしいことが起こることを誰が想像できたでしょうか。ここにも神様の介入があったとしか思えないのです。

悪の力が強くなっていく時、神の民の苦しみが増していくのを神様は確かにご覧になっておられます。そして、ご自身の民を救うために、介入され、働かれ、救いのご計画を進めてくださるのです。神様は、神の民と結んでくださった契約を忘れることなく、神の民を守ってくださるのです。

ですから、困難な状況だけを見るのではなく、あわれみ深い、全能の神様の御手の中にあることを覚えたいのです。私たちは確かに神様のご計画の中にあり、守られていることを信頼して、ゆだねたいのです。

3. モーセの成長（：10）

そのヘブル人の男の子は、神様の守りの中で、実の母親に育てられ、やがて大きくなって、エジプトの王女のもとに連れて行かれます。そして、王女の息子として、さらに成長していくこととなります。王女は、その子の名前をモーセとつけます。モーセという名前は、10節にあるように、王女が「水の中から、私がこの子を引き出したから」と言って、つけた名前です。

この名前がつけられたことにも神様の導きを感じます。王女にしてみれば、自分がナイル川からこの子を引き出し、助けてあげて、自分の子どもにしたという自負があったことでしょう。しかし、やがて、神の民をエジプトから引き出す神様の救いの御業のために用いられる彼の名前であって、そこにも神様のご計画を見ることができます。

それでも次回以降読んでいきますが、神様の救いの御業はすぐに行われるわけではありません。実にモーセが80歳になるまで待たなければなりません。しかし、神様はご自身の計画をすでに進めておられたのです。そのことをまだ誰も知りませんが、神様の最善の計画が進められているのです。

神様が与えてくださる救いは、即座に起こることもあります。でも時間をかけて、人を育てて、その人を御業の中で用いられることもあるのです。

私たちも神様の御業によって救いをいただき、神様の御業の中で信仰において成長させていただいています。その過程においては様々なことがあります。でも、神様がなさることには無駄なことはありません。私たちが経験することの中で、私たちは訓練を受けたり、自我を砕かれたり、主をますます信頼するようになったりします。そうして成長させていただけるのです。

私たち教会も、一人一人も、神様のご計画の中で導かれ、守られています。変えられそうにない困難な状況に直面することがあるかもしれませんが、神様はみことばの約束によって、希望を与え、励ましてくださいます。神様の御業を期待して、祈って、できることをして、あとは委ねて、御業を見届けましょう。

そうするとき、不思議なように導かれ、守られることがあります。あわれみ深い、全能の神様の御手のうちにあることを覚えましょう。

そのような神様の御業の中で、私たちは信仰において成長させていただけます。神様によって、訓練され、自我を砕かれ、ますます主を信頼する者にならせていただきますように。